

令和4年度「蔵前小学校 授業改善推進プラン」

調査概要 【台東区総合学力調査】
 調査対象 台東区蔵前小学校 第4学年
 実施日 令和4年4月18日
 実施教科 第4学年 算数

第4学年 算数

1 結果の分析

(1)結果の概要

○全体的な状況の説明

◇評価の観点から

3観点とも、目標値を10%程上回っている。全体的に良好な結果である。

◇正答率度数分布グラフから

正答率分布グラフから、正答率80~100%以上の児童が80%以上を占めている。正答率20%~69%のそれぞれの範囲には、数%の児童が分布している。正答率100%の児童は10%で、最も多い階級は90~99%で32%だった。

分類	区分	平均正答率(%)			
		本校	目標値	区	全国
評価の観点	知識・技能	86.0	75.2	82.0	76.9
	思考・判断・表現	71.4	62.1	67.8	59.4
	主体的に学習に取り組む態度	79.6	70.6	75.5	72.4

(2)結果から明らかになった課題

算数	個別の状況(課題)	解決すべき課題
	<ul style="list-style-type: none"> ○知識・理解 <ul style="list-style-type: none"> ・整数-小数第一位の計算ができていない児童は66%だった。 ○思考・判断・表現 <ul style="list-style-type: none"> ・分子が1の分数が何個で1になるか理解している児童は64%だった。 ○主体的に学習に取り組む態度 <ul style="list-style-type: none"> ・円の中心と円周上の2点を結んでできる三角形が二等辺三角形になる理由を説明できた児童は23パーセントだった。 	<ul style="list-style-type: none"> →位を揃えて位ごとに引き算をし、小数第一位に繰り下げて計算する必要があることを理解し、その計算ができることに課題がある。 →1をいくつかに分けたいくつ分という量で分数が構成されていることを理解する力に課題がある。 →円の中心と円周にある点を結ぶ直線は、等しい長さになることを理解する。また、理解したことを生かし、文章で説明する力に課題がある。

2 改善策

(1)具体的な改善策

算数	<ul style="list-style-type: none"> ○知識・理解 <ul style="list-style-type: none"> ・たし算、ひき算は位を揃えて位ごとに計算することや、繰り上がり、繰り下がりについて、反復学習の機会を設け計算の技能を高める。また、eライブラリドリルを活用し、復習ができるようにする。
	<ul style="list-style-type: none"> ○思考・判断・表現 <ul style="list-style-type: none"> ・数の量を目で見て捉えられるようにするため、分数の量を表す図をかく学習活動を取り入れる。習熟度別グループでの授業を行い、児童の実態に合わせて学習課題を設定する。
	<ul style="list-style-type: none"> ○主体的に学習に取り組む態度 <ul style="list-style-type: none"> ・図形単元では、図形の辺の長さや角の大きさに注目したり、作図したりすることを通して、図形の特徴を調べまとめる。また、まとめる際には児童が自分の言葉や文章で書く学習活動を計画的に授業に取り入れる。

(2)改善策(手だて)に対する検証

授業中の練習問題や単元の終わりの単元テスト、東京ベーシックドリル診断を実施し、学習の定着を評価する。単元のまとめの際や学期末に復習の機会を設け、定着の不十分なところを反復学習で身に付けていく。